

## コラム

## キャンパスに通えなかった1年生

なかむら たまこ  
中村 珠子

(日吉メディアセンター)

毎年4月の日吉キャンパスは多くの新生が行き交う活気溢れる場所だったが、新型コロナウイルス感染症の影響で2020年の春は雰囲気がガラリと変わってしまった。思うようにキャンパスに通えなくなってしまったこの年の1年生はどう過ごしていたのだろうか？

2020年度は彼らと接する機会があまりなかったため、翌2021年度の6月の初旬から中旬にかけて、日吉メディアセンターのカウンターに来た「元1年生」に「緊急事態宣言下の学生生活について」というアンケートを配布したところ、18名が協力してくれた。質問とその回答の一部を紹介する。

Q1 自粛期間中はどう過ごしていましたか？

「家で授業を受講していた。」

「授業以外は自宅で動画視聴や読書、ゲームなど。」

Q2 2020年度内（2020年4月～2021年3月末）にキャンパスへ来たことはありましたか？

（「ある」77.8%、「ない」22.2%）

「ある」と答えた方の目的は？

「対面授業の受講」

「メディアセンターの利用」

Q3 この1年で困ったことはありましたか？

「クラスの知り合いができなかった。」

「授業内容について相談する相手がいなかった。」

「レポート作成のための文献入手に苦労した。」

「メディアセンターの利用方法がわからなかった。」

「キャンパス内の配置がわからなかった。」

Q4 新しく見つけた時間の過ごし方や趣味などがあったら教えてください。

「動画視聴」「読書」「折り紙」「エクササイズ」「楽器演奏」「屋外での昼寝」「資格勉強」「Zoomで友人と交流」など。

アンケートの結果から、人に会うことが少なく、新しい環境でひとり解決方法を探ることの多い1年間だったことが読み取れる。

カウンターに座っていて、コロナ禍前と現在の利用者の様子で変わったなと思ったことが2つある。

## 「館内が静かになった」

コロナ禍以前の日吉メディアセンターは、勉強、読書のほか、友人との待ち合わせ、授業やサークル活動の合間の時間調整、ミーティングなどにも利用されていたため、かなり賑やかだったが、ひとりが入館する学生が増えたことや会話を控えていること、以前よりも間隔を空けた閲覧席になったため、とても静かな場所になった。

## 「挨拶が増えた」

受付や1階メインカウンターにいと、通り過ぎる際に挨拶や会釈をする学生が増えた（気がする）のは嬉しい変化だった。複数人で入館する学生が多かった頃に比べると、カウンターに座る職員と目が合いやすかったのかもしれない。

2021年度春学期の後半には、不慣れだった入学直後と比べて入退館の動作がスムーズになり、友人と連れ立って入館する「元1年生」が増えてきた。「知り合いができなかった」というアンケートのコメントが複数あったことを思い出し「よかったね」とほっとした。また、館内を歩いた時に同じ時間帯・同じ場所でなんとなく見知った顔を見かけることが多くなり、勝手に親近感を覚える。「元1年生」たちも、それぞれが自分のペースで日吉キャンパスでの生活に慣れてきたのだなと実感しているが、それと同時に目を合わせ、挨拶を交わす頻度が少なくなってきたような気がして、ほんの少し寂しさを覚える今日この頃だ。